

多職種連携地域医療演習

責任者・コーディネーター	臨床薬学講座地域医療薬学分野 高橋 寛 教授		
担当講座・学科(分野)	地域医療薬学分野、 医学教育学講座医学教育学分野、医学教育学講座地域医療学分野、 歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 地域包括ケア講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 12時間
期 間	前期		
単位数	1単位		

・学修方針（講義概要等）

地域包括ケアシステムにおいては、医療・介護の専門職と連携して業務を行う多職種連携の実践（interprofessional work ; IPW）が求められる。地域のチームの中で薬剤師が役割を果たすためには、各専門職種が考える患者や家族、利用者の生活に合わせたニーズやゴールを共有した上で薬物治療への参加、および生活支援を行う必要がある。患者・利用者中心のケアを目指す IPW には何が必要で、薬剤師が各専門職にどのように貢献できるかを多職種連携教育（interprofessional education ; IPE）の体験を通して学ぶ。本演習では、医学部、歯学部、薬学部、看護学部の4学部の学生が一緒に学ぶことで、相互の職種の理解を深めることができる。さらに、アドバンスド・ケア・プランニングにも触れる機会となる。

・教育成果（アウトカム）

患者・利用者の生活環境を重視し、患者・利用者本人が望む人生を最優先し、患者・利用者に寄り添う治療やケアとは何かを考え、多職種同士がどうコミュニケーションを取ればよいかを学ぶ。チームとして共通の目標を設定し、活動方針を共有し、課題解決を図るとともに、薬学的観点からチームの活動に有益な情報を提供することで、医療機関や介護施設、在宅医療での治療やケアの提供、さらには患者・利用者の意思決定支援や終末期医療への参画など地域医療に貢献できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：1,4,5,6,8,9,10)

・到達目標（SBO）

1. 地域包括ケアシステムにおける支援を行う様々な専門職や機関の役割を列挙できる。(☆)
2. 支援目標を達成するために必要な支援内容を列挙できる。(☆)
3. 異なる職種や異なる立場をもつ者の視点や価値を尊重しつつ、合意形成を行うことができる。(☆)
4. 患者・利用者並びに専門職に対し、方針内容をわかりやすく説明できる。(☆) (技能・態度)
5. 在宅医療に必要なスキル（経管栄養、簡易懸濁法、ACP）を体験できる。(☆) (技能・態度)
6. 患者・利用者、ケアマネージャーなどから必要な情報を収集できる。(☆)
7. 患者・利用者へ寄り添った目標を設定するために、患者・利用者のおかれている状況をアセスメントすることができる。(☆)
8. 患者・利用者の思い、ニーズ、願い、ゴールなどを討議できる。(☆)
9. 支援目標を達成するために活用できる社会資源について討議できる。(☆)
10. 患者・利用者中心の共通の支援目標を立てることができる。(☆)
11. 多職種連携を行う際に必要な態度について討議できる。(☆)

・ 講義日程

(矢) マルチメディア教育研究棟 カンファレンスルーム

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
5/7	火	3	地域医療薬学分野 医学教育学分野 蘇籍・ロザリハビリテーション分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 高田 亮 准教授 小林 琢也 教授 岩渕 光子 教授 藤原 弥生 助教	オリエンテーション 多職種連携の重要性とチームビルディング 1. 地域包括ケアシステムにおける支援を行う様々な専門職や機関の役割を列挙できる。(☆) 2. 支援目標を達成するために必要な支援内容を列挙できる。(☆) 【対話・議論型授業】【ICT(google フォーム)】 事前学修：地域包括ケアシステムの中で多職種が連携する場面には、どんな場面が考えられるか調べて、400文字程度でまとめてきてください。 事後学修：振り返りのレポートを提出してください。
5/7	火	4	地域医療薬学分野 医学教育学分野 蘇籍・ロザリハビリテーション分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 高田 亮 准教授 小林 琢也 教授 藤原 弥生 助教	在宅医療に必要なスキルを学ぶ 1. 在宅医療に必要なスキル(経管栄養、簡易懸濁法、ACP)を体験できる。(☆) 【対話・議論型授業】【ICT(google フォーム)】 事前学修：症例に関し、不明な点を調べてきてください。アドバンスド・ケア・プランニングはどんな患者さんに特に必要か調べて、400文字程度でまとめてきてください。 事後学修：振り返りのレポートを提出してください。
5/9	木	5	地域医療薬学分野 医学教育学分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 田島 克巳 教授 岩渕 光子 教授 藤原 弥生 助教	症例の読み込みと治療方針の検討 1. 異なる職種や異なる立場をもつ者の視点や価値を尊重しつつ、合意形成を行うことができる。(☆) 【対話・議論型授業】【ICT(google フォーム)】 事前学修：症例に関し、不明な点を調べてきてください。 事後学修：振り返りのレポートを提出してください。

5/10	金	5	地域医療薬学分野 医学教育学分野 地域医療学分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 田島 克巳 教授 高田 亮 准教授 伊藤 智範 教授 岩渕 光子 教授 藤原 弥生 助教	模擬患者・模擬利用者、模擬家族へのプレゼンテーション 1. 患者・利用者並びに専門職に対し、方針内容をわかりやすく説明できる。 (☆) (技能・態度) 【対話・議論型授業】【ICT(google フォーム)】 事前学修：フェースシートやアセスメントシートからどんなことがわかるか事前に調べ、400文字程度でまとめてきてください。 事後学修：振り返りのレポートを提出してください。
5/25	土	1	地域医療薬学分野 医学教育学分野 地域医療学分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 高田 亮 准教授 伊藤 智範 教授 小林 琢也 教授 岩渕 光子 教授 藤原 弥生 助教	グループディスカッション 1. 患者・利用者、ケアマネージャーなどから必要な情報を収集できる。 2. 患者・利用者に寄り添った目標を設定するために、患者・利用者のおかれている状況をアセスメントすることができる。(☆) 【グループワーク】【ディスカッション】 【ICT(google フォーム)】 事前学修：症例に関し、調べたり、わかった内容をまとめておいてください。 事後学修：振り返りのレポートを提出してください。
5/25	土	2	地域医療薬学分野 医学教育学分野 地域医療学分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 高田 亮 准教授 伊藤 智範 教授 小林 琢也 教授 岩渕 光子 教授 藤原 弥生 助教	グループディスカッション (他学部合同) 1. 患者・利用者の思い、ニーズ、願い、ゴールなどを討議できる。(☆) 2. 支援目標を達成するために活用できる社会資源について討議できる。 (☆) 【グループワーク】【ディスカッション】 【ICT(google フォーム)】 事前学修：症例に関し、調べたり、わかった内容をまとめておいてください。 事後学修：振り返りのレポートを提出してください。
5/31	金	3	地域医療薬学分野 医学教育学分野 地域医療学分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 田島 克巳 教授 高田 亮 准教授 伊藤 智範 教授 岩渕 光子 教授 藤原 弥生 助教	教員や施設職員へのプレゼンテーション 1. 患者・利用者並びに専門職に対し、方針内容をわかりやすく説明できる。 (☆) (技能・態度) 2. 患者・利用者中心の共通の支援目標を立てることができる。(☆) 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 【ICT(google フォーム)】 事前学修：発表の準備をする。

					事後学修：発表プロダクトを提出してください。
5/31	金	4	地域医療薬学分野 医学教育学分野 地域医療学分野 地域包括ケア講座	高橋 寛 教授 田島 克巳 教授 高田 亮 准教授 伊藤 智範 教授 岩淵 光子 教授 藤原 弥生 助教	演習の振り返り 1. 多職種連携を行う際に必要な態度について討議できる。(☆) 【ディスカッション】【ICT(google フォーム)】 事前学修：演習で学んだことをまとめてきてください。 事後学修：振り返りのレポートを提出してください。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	新しいIPWを学ぶ：利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携	埼玉県立大学編集	中央法規出版	2022
参	ケアマネジメントにおける多職種連携実践事例集	木村隆次, 工藤英明編集	中央法規出版	2018

・成績評価方法

聴講態度（50%）とレポート（50%）で評価を行う。

・特記事項・その他

<p>事前学修・事後学修のポイント</p> <p>事前学修については、事前に moodle 上に課題を提示しますので、レポート用紙等に 400 文字程度でまとめ、moodle 上に提出してください。毎回 120 分程度要します。</p> <p>事後学修については、授業で学んだ内容をまとめ、400 文字程度で振り返りレポートを作成し、moodle 上に提出してください。毎回 120 分程度要します。</p> <p>また、毎回授業開始時と終了時に google フォームからアンケートに回答してもらいます。</p> <p>事前課題やレポート等に対するフィードバック方法</p> <p>課題に関しては、授業中に回答例の一部を紹介するなどフィードバックを行う。</p> <p>提出されたレポートは、コメントを付けて、直接もしくは moodle 経由にて返却する。</p> <p>日程については、受講者との相談の上で状況に応じて変更することがある。</p>

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-NX3）	1	スライド投影のため
講義	パソコン(Microsoft Surface Laptop Model1769)	1	スライド投影のため